

京都大学経済研究所先端政策分析研究
センター創立20周年記念シンポジウム

なごはま0次予防コホート事業／ 経済研アンケート調査と文理共創

2025年1月11日
関根 仁 博

1. 自己紹介

- ✓ 文部科学省の行政官（もともとのバックグラウンドは工学系）
- ✓ CAPS在籍期間：2017.4～2021.4
- ✓ ながはま0次予防コホート事業と連携し、社会経済行動データを収集する経済研アンケート調査の2回目(2019.1)及び3回目(2020.7)を担当
- ✓ 得られたデータを用いて、主にソーシャル・キャピタル関連の実証研究を実施。

※ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）とは

- ✓ 人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「互酬性の規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴。
- ✓ ソーシャル・キャピタルは、健康の増進、教育効果の向上、経済発展、民主主義・ガバナンスの向上など有益な成果をもたらし、社会や個人の繁栄にとってその蓄積が重要であると指摘されている。

2. ながはま0次予防コホート事業と経済研アンケート調査

ながはま0次予防コホート事業：京都大学医学研究科が、滋賀県長浜市において2007年より実施している、約1万人の長浜市民を対象とした健常者コホート事業。
経済研アンケート調査：事業参加者を対象としたアンケート調査により、社会経済行動データを収集、パネルデータとして構築。

ながはま0次予防コホート事業

“0次健診”

- 質問票による環境・生活習慣や過去に患った病気の調査、潜在的な病気のスクリーニング
- 身体測定と臓器の機能測定（心電図、中心血圧、動脈硬化度、呼吸機能など）、胸部X線、眼底写真などの画像検査
- 採血・採尿による血液学、生化学、免疫学的検（ゲノム解析を含む）

※ 2007年より開始。現在第4期目

健常者コホート調査

健康・医療、遺伝情報（ゲノム）データ

- 基本属性
 - 家族構成・学歴・職業・収入等
- 行動の傾向・感じ方
 - 慎重さ、忍耐強さ
 - 公正感覚、幸福感 等
- 地域や周りの人との関わり
 - 人への信頼
 - 近所の人との付き合いの程度
 - 政府や警察等への信頼感 等
- コロナ禍における行動

※これまでに、2017年1月以降、事業参加者を対象に計4次にわたる調査を実施。

経済研アンケート調査

社会経済行動データ

医学系の
付随研究

3. 経済研アンケート調査を用いた実証研究

□ 生活習慣の改善意欲とソーシャル・キャピタル(2020)

生活習慣の改善や保健指導受診に対する意欲と、ソーシャル・キャピタル、特に地縁活動や市民活動／ボランティア活動などとの間に有意な関連が認められた。

□ 新型コロナウイルスの感染予防行動とソーシャル・キャピタル(2022)

感染予防行動としての行動抑制が、普段の近所付き合いや地縁活動などの地域でのつながりの程度と有意に関連していた。

□ コロナ禍のストレス軽減とソーシャル・キャピタル(2023)

行動自粛やコロナ禍による生活への悪影響などによる精神的健康悪化に対して、「近隣住民への信頼」がストレス緩衝効果を示した。

□ 一般的信頼の生成要因としての市民参加（今年度学会発表予定）

他者一般に対する信頼と市民参加の関係について分析。一般的信頼が高いと市民参加する傾向が認められたが、逆は認められなかった。

※発表者が実施した研究のみ

4. 文理共創について

○文理共創／文理融合の重要性

- 背景には、イノベーション創出、社会課題の解決に対する科学技術への期待の高まり
- ながはまにおいても、狭義の医学研究から、社会科学と重なる領域への広がり

○統合データセットの構築（狭義の文理共創）

- 0次予防コホートによって得られた健康・医療、遺伝情報（ゲノム）データと、社会経済行動データを連結させた文理融合研究の推進。

○研究プラットフォームとしての「ながはま」（広義の文理共創）

- 京都大学（学術研究）、長浜市（健康政策）、0次クラブ（市民運動）及び長浜市民が築いた基盤のもと、
 - －医学系研究から社会科学研究への面的な広がり
 - －民間事業者、国際的な共同研究など参加者の広がり

多様な研究が推進可能な優れた研究プラットフォーム

- 4者がwin-winの関係を継続的に構築することが不可欠であり、研究成果を説明・還元していくことが極めて重要。地域性の高い社会科学系の研究成果は、この優れた研究プラットフォームの維持・発展に積極的に寄与しうるもの。これも広い意味での文理共創。